

産地戦略

実施期間 令和5年度

実施主体 坂井地区園芸タウン推進協議会
 都道府県 福井県
 対象地域 あわら市城
 対象品目 花卉類



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

花卉類の販売単価は、需要や出荷量、品質によって1年を通して大きく変動する。そのため、安定した経営を行うためには、安定した販売単価の時期に高品質のものを出荷することが必要であり、7月下旬から8月上旬の旧盆の需要期には、比較的販売単価が高い水準で安定している。しかし、需要期での高品質花き類の出荷のためには、病害虫の被害を最小限に抑える必要がある。そこで、生産者は定植以降、収穫直前まで、多回数の殺虫剤・殺菌剤の散布を、栽培期間中は10回程度行っている。特に、アザミウマ類およびタバコガ類の被害は、多くの花卉類に共通する害虫であり、それらの防除は定植以降、毎週欠かさず行う必要がある。防除を怠ると、葉や花弁が害虫被害に遭い、出荷できない。ただし、花き農家にとって殺虫剤の散布は農薬費および労働時間の大幅な増大につながるため、所得減少の原因となっている。そこで、需要期の高品質の花き類を出荷するため、光防虫器を活用した化学農薬の散布量の低減を図る。

現在の栽培体系

時期	栽培場所	3月			4月			5月			6月			7月			8月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
トルコギキョウ (季咲き)	ハウス				◎	←	→	◎											
アスター (季咲き)	露地				○			◎											
キク (夏秋ギク)	露地		○	←	○	◎	←	◎											
ヒマワリ (55日タイプ)	露地								○										
慣行防除	殺虫剤	ハウス										▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	殺虫剤	露地										▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	殺菌剤	ハウス										△		△		△			
	殺菌剤	露地										△	△	△	△	△	△	△	△

○播種・挿し芽 ◎定植 ■収穫 ▲殺虫剤散布 △殺菌剤散布

グリーンな栽培体系

時期	栽培場所	3月			4月			5月			6月			7月			8月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
トルコギキョウ (季咲き)	ハウス				◎	←	→	◎											
アスター (季咲き)	露地				○			◎											
キク (夏秋ギク)	露地		○	←	○	◎	←	◎											
ヒマワリ (55日タイプ)	露地								○										
グリーン防除	殺虫剤	ハウス																	
	殺虫剤	露地																	
	殺菌剤	ハウス																	
	殺菌剤	露地																	

○播種・挿し芽 ◎定植 ■収穫 ▲殺虫剤散布 △殺菌剤散布

光防虫器の設置により、アザミウマおよびヨトウムシ類やタバコガ類の被害が大幅に減少するため、防除回数が大幅に減少

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	1.5	▶ 2	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.15	▶ 0.4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.15	▶ 0.4	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.15	▶ 0.4	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 光防虫器を活用した防除	化学農薬の使用回数の削減 防除回数の削減による省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	殺虫効果のある化学農薬の使用回数（回）	10	▶ 7	現状の3割減
省力	殺虫効果のある農薬の散布時間（時間）	30	▶ 21	現状の3割減

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

当技術に関する部会での説明会の実施

関係者の役割

関係者名	坂井農林総合事務所	JA福井県		
役割	技術指導	生産物の販売		

その他